

原発建設の現場監督として20年間も働いて原発の裏表を知り尽くした平井さんは、自らも被曝し、肝臓ガンなど様々な病気を抱えている。にも関わらず、一九九〇年には被曝労働者の相談を受ける救済センターを設立。ボランティアの医者等と組んで健康診断を行なう等の活動を続けていた。同時に、駅の階段を登るにも4~5回は休むような体で、一年のうち半分ほどは全国に講演し出かけたり、裁判の証人として出廷し、原発の危険性を訴えてきた。

(聞き手・文責:浜田)

—— もんじゅの事故をどういうふうに見られましたか。

平井● あれは別に珍しいことではないね。起きたくして起きたことだから。

もんじゅは仮にこれから動かそうとしてもね、許可が出てもまともには動かない。だってこないだのナトリウム漏れまでにも、何十回という止まつたり動かしたりしてるんだからね。なぜもんじゅがうまくいかないかという根本的なものがあるわけよ。机の上でやってる人が気づかないことね。

それはふつうの軽水炉と違って配管がものすごい多いわけ。ある程度工場で配管をつないでくるでしょ。それが現場で合わない。図面の上では合ってんの。で、一つづつ寸法をあたればちゃんと図面通りに作られてる。現場で測ってもその図面の通りに配管があるわけよ。それでも合わない。でもこれは、合わないからといって切り刻んでつなぐいうわけにいかないもんだから、現場からちょっと来てほしいいので私も行って、何が原因かなと。原発反対運動してる人は、私のやり方に反発もあるの。そういうふうに指導してやるというのは推進じゃないかと。でも動かす限りは事故が絶対あっちゃダメなんだ。それ見たかじゃすまないわけよね。誰がどう言ったって動かすんだから、いかにして事故が起きないようにするか、最小限にとどめるかいうのが、ね。

—— じゃあ建設してる人たちからもお声がかかって、助けてくれと頼まれたんですね。

平井● まあ助けてくれまでは言わないけれども、私も配管が専門だからね。でね、図面をホテルへ持つて帰って、どうして合わないんだろうなと。で、やっと分かったのが、もんじゅは寄り合い所帯でやってるわけ。日立、東芝、三菱、動燃、日本原電。そうするとね、私は日立にいたんだけど、設計図を書く時に日立は0.5mm以下は切り捨てなんだ。東芝は切り上げなの。三菱も切り上げ、日本原電は切り下げる。別々に設計をやってるわけ。すると図面の上では合うわけだけど、0.5mmが10ヶ所集まればなんば、100ヶ所集まればなんば、もう1mくらい合わないようすぐなくなってしまうわけ。だから、今なるほどつながってるけど、もうやたらめたら無理してつないでるから、まともなものじゃない。それからもう一つは、各社ほんとのノウハウはああいう寄り合い所帯では出さない、企業秘密がいっぱいあるから。全部、動燃が責任もてよということになっている。その動燃いうのも元々あったものじゃなくて

原発建設の現場監督を長年勤めた末専門家として原発の危険性を告発

平井憲夫さん



## 国の安全という言葉信じたら ほんとに殺されるよ

9つの電力会社と国とが作ったものだからね。

—— もんじゅを作る態勢自体に欠陥があるわけですね。じゃあ、一般的軽水炉などの原発の場合はどうなんですか。

平井● 原発によって日立がやってる三菱がやってるというでしょ。でも日立の人間が作ってるわけじゃない、施工はね。もうひ孫請けくらいのところが直接工事をやってる。そしていわゆる職人がいないからどうしようもない。原発の新設工事は被曝はないんだけれど、それにしても若い人が今どき地下タビ履いて、こんな寒い空の下で仕事覚えるかいうたら、覚えるようなのはいないもん。ブルーカラー、つまり一日働いていくらの人たちは、年間通して1ヶ月のうち18日から23日位しか働いてないわけ。それでボーナスも無い、保障も何も無い。休んだらひかれるでしょ。年収が大体220~230万だから。そういうところへ誰があえて働きに行って技術を覚えようとするか。13~14年前からそういう傾向はあったからね。その頃一番油の乗り切ってた40代の職人がもう今は現場離れたでしょ。その次がいないわけ。普通の大工や左官屋さんならまだ育て方があるけど、原発の工事いうと、一回工事が終ったら、もう次がないんだから。定検工事(定期検査)いうのは毎年あるよ。でもこれは被曝を伴なうからね。そんな被曝しなくなつたって、腕のいい職人さんいうのは化学プラントとか石油プラントでやってるから。仮に溶接工いの場合はピークが25~26才なんだ。それをすぎると目がやられるからね。だんだん目が劣ってくるでしょ、じゃあしかたがねえや原子力発電所でも行こうか、よそで使いものにならないから行こうかいうところなんだから。

—— でもそういうことが実際には事故等に大きく関わってくるわけですね。

平井● ここ10年位の事故を見ると、事故じゃないんだ。もうまったく素人がやってるのに、電力

会社がようチェックしない。ついでに女川2号機が止ったのにも関わらず、バルブの納入業者がボルトをきっちり締めてなかったわけよ。ほんとはそこで受け取った電力会社がもう一回ちゃんと締まってるかどうかチェックする。どちらもやってないから、放射能を含んだ水を何十トンも流しちゃった。ゴミを取るストレーナーってあるでしょ。あれを反対向きにつけてみたり、もう考えられないんだから、この頃のは。だって仕事をしてる人が、今自分が何をやってるか分かっていないんだから。

—— 日本の技術は優秀で、それは日本の労働者が優秀で、だから自動車にしても外国の車と比べると違う。外国の車はよくネジを締め忘れたりとかがあって、故障もしやすいんだというイメージが常識みたいになってしまったよね。

平井● それをみんな原子力発電所にダブらしているね。自動車とか電気製品は大量生産で、これをやるのは優秀だわ。でも原子力発電所は一つづつやるんだから。同じことは二つとないんだから。職人がどんどんいなくなってるからね。

—— じゃあ日本の技術は優秀だというのは、少なくとも原発に関しては幻想なんですね。

平井● そりゃあ図面では優秀よ。いろんなことしてそれは立派。でもその通りには作られてないというのは、施工管理をおざなりにしてきた。机の上の図面だけの論争をやってきてるから。

—— でも怖いですね。そういうものがいっぱい動いているのは。

平井● 今、定検(定期検査)工事やってる原発だいぶあるの。工事が終るでしょ。終って試運転の段階で事故をやるわけ。さわらなくていい所までさわってるわけよ。阪神大震災でも、高速道路を設計した人はよもや橋桁のコンクリートの中にコンパネとかジユースの空き缶が入っているとは思ってない。

# 原発は必ず放射能を大量に放出しなきゃダメなようにできてる

それが直接の原因じゃないんだけど、あそこで直接コンクリートを流して作っている人はいわゆる世間でいう出稼ぎの人なんだ。お百姓さんなんかね。原子力発電所でも同じような出稼ぎの人が仕事している。だから体質は一緒。それに今の監督いうのも、自分でやってみせる技量がないわけ。私もいっぱい何十人も監督を育てたよ。でも70年代の終わりから80年代に原発ラッシュで、監督を育てる間がなかったわけ。すると素人のまんま各現場に行かせるでしょ。だから素人が寄ってたかって作っているのが原発だって私は言うんです。

——じゃあ、その頃に建てられた原発はけっこうやばいわけですね。

平井● 70年代の終りごろから82~83年頃に作られたやつはね。もう地震ではもないもん。

—— 原発はどんな地震にも絶対安全ですってよくPRしますけどね。

平井● それは原子炉のことなの。私が言うのは原子炉がもっても配管がもたないよいうんです。配管が破断したら、もうこれは制御きかないんだから。まったくそれが美浜の原発事故だったわけよ。わずか2cmほどの細管が破断して、50トンほどの放射能含んだ水を流したでしょ。大気には90億ベクレルいう放射能を放出してしまったんだから。三大原発事故の一つよ、あれは。

みんな原子炉ばっかり言ってるけど、そうじゃないのよ。車で例えるとね、ブレーキはしっかりしていても、そのブレーキへ行く途中のオイルのパイプが切れた場合は、もうブレーキ利きやしないんだから。

—— そういうごまかしやウソが原子力行政には多いですね。すぐバレそうなウソもいっぱいりますけど、どうしてなんでしょうね。

平井● それは私もいっぱいウソをついてきましたから。働いている労働者に、国の許容線量さえ守ていれば、ガンになる白血病になるいうのは大ウソだよ。あんなのは原発反対グループが言っていることだよと。いうんで、自分が20年間やってきたんだもの。でも知ってたんだよ、おれは。ガンにも白血病にもなるいうんは。

—— 知っていてウソをつくというのは、そうしないと労働者が集まらないということですか。

平井● 原子力発電所いうのはね、新規立地の所へは、いわゆる地域の発展と雇用の促進をうたい文句にしてるわけ。すると被曝するいうことが世間に出ると、雇用の促進にならないでしょ。だからそれは絶対に外に出せないわけ。そして私なんか孫請けの人間が、通常の500倍の被曝をしたわけよ。それでも本人には知らせないからね。

—— じゃあ本人は何も知らないでいいことばかり言われて、気が付いたら症状が出てきたと?

平井● 症状が出たって、放射能が原因だいうのはわかんないから。

今でも国的基本の方針は被曝はないで、なぜかいうと、日本は年間50mSvシーベルトを越えてはじめて被曝だと。だけど年間50mSvシーベルト越えてる人は、24万人の原発労働者の中で一人もいないわけ。だから被曝はない。これはICRP(国際放射線防護委員会)が今から19年前に作った基準。そのICRPが、50mSvじゃ危険だから20mSvに下げなさいよという勧告を1990年に出してる。で、日本は守らないわけ。ヨーロッパ、アメリカではもうみんな20mSvシーベルトを受け入れてるわけ。日本だけなぜ守らないか、それは守れない根拠があるわけよ。今50mSvシーベルトで管理して定検工事をやってるでしょ。その時に被曝するんだから。すると定検工事はだいたい3カ月でやる

から、それを割っていくと1日いくらいの数字が出てくるでしょ。で、その人間じゃないとできない作業いうのがあるわけよ。そうすると放射線量の高い所だと1日に5分位しか作業ができないわけ。5分いうと段取りで終っちゃうから、仕事にならないでしょ。それを20mSvシーベルトにすると半分以下だから、するともう現場に行って帰ったらもう終り。作業にならない、ということはもう原子力発電所の運転ができないわけよ。

—— でも欧米ではそうやってるわけですか。

平井● だからどんどん閉鎖していくって。イギリスも2020年には全廃だからね。アメリカも2010年には今の半分にすると。もうやれないと。日本と違って人権とかいのちとか、もう全然価値観が違うでしょ。賠償請求にしても。そしてウソをつかないから。

—— 日本はウソをついてごまかしているわけですね。

平井● 情報公開しないでしょ、日本は。私なんか自分で公開してるだけであって、国としては公開しないですよね。だから、今でも毎日、原子力発電所で働く人が被曝しているということですね。

—— 労災がなかなか認められて来なかつたそうですが、平井さんのやってられるセンターでは労災の集団申請をしようとされてたそうですね。

平井● それがプライバシーのこととかがあつて、相談來てる人たちがちょっと待ってほしいいうことになったんです。子どもに白血病が出る確率が非常に高いわけですが、白血病いうと日本では不治の病っていう特殊な病気と見られてるでしょ。特に放射能に冒されてなった白血病いうのは治療法がないんだから、今のところね。で、ちょっと待とうかなと。

それと法律から変えなきゃダメなんです。今の

【BOKS】原発の実態を分かり易くまとめたパンフ『平井憲太郎のお話し』  
↓180 東京都武蔵野市境2-11-4  
☎03-5674-17023 PKO法「難則」を広める会

放射能を出しているのは「漏れ」なんかじゃない。故意に出してるんだから。

労働基準法では被曝から発病まで1年以内でないと労災の申請にならないわけ。これはまだ日本だけそんなこと言ってるんだけど、 Chernobyl の事故のおかげで分かったのが、晚発性いうのね。年数がたつほど病気が出てくるわけ。 Chernobyl でも事故の時より3年目、5年目、どんどんどんどん増えてきてる。だから今の労働基準法いうのはおかしいわけ。そういうような、おいそれじゃいかないことがいっぱいあるわけよ。

—— 原発っていうのは一応国策っていうことでやってるわけだし、法律も国が決めるものですから、法律を変えていくのも大変でしょうね。

平井● 国が決める国が決めるうんだけど、政府いうのは形がないものなんだ。国民一人一人のものが政府なんだから、国民がしっかりしなきゃダメ。だから私なんかよくがんばってくださいって言われるんだけど、お前ががんばって言うの(笑)。なんで俺ががんばらなきゃダメなんだ。

—— 人ごとだと思ってる限りは変わらないですね。原発被曝労働者救済センターを始めたきっかけは?

平井● I C R P が90年に出した勧告がきっかけ。いうのは日本は前科がある。昔 100mm シーベルトだったのを 50mm に代えろという勧告を18年間守らなかったから。高度成長で人の命よりも金もうけを優先していた時期。その間にどれだけの人間が犠牲になっているかわからない。

センター始めたら、なぜ民間でやらなきゃダメなんだと外国のマスコミがおおぜい取材にきた。なぜ国や労働組合が支援しないんだと。それまで日本だけが被曝の実態を調査してなかったが、外国のマスコミが科技庁に押しかけたため、日本も疫学調査をやるとうっかり言っちゃった。ところが労働省はもう3人の被曝労働の労災を認めてい

るのに、科技庁の調査では関係ないと。その調査をしたのが Chernobyl でも元気な子どもだけ集めて影響なかったと言って帰ってきたメンバーなので、もうこれはダメだと、日本全国のお医者さんが知っているグループなんです。18万人調査をしたというのに1人も面接していない。呆れてものが言えないんです。そこで救済センターで独自に本格的な調査をしようということになった。労働者だけでなく、周辺に住んでいる人たちも含めてやりたい。お金も時間もかかるけれどもね。

3年ほど前までは、原発は運転中に放射能を一切出していないと一生懸命言ってたんだから。でもそれは大ウソだと私が全国で言うもんだから、とうとう隠せなくなって、微量な放射能を放出してるうしょ。でも私が言うのは、微量でも蓄積するから大変なんだ。周辺の人は10年20年住んでるでしょう。するとずーっと蓄積されてるんです。こないだもある所へ行ったら、自治体の保健婦さんが、知的障害の子ども、水頭症の子ども、これが非常に増えてきたと。そこは運転始まってちょうど10年目なんです。10年目位からそういうのが出てくるんです。

じゃあ Chernobyl では爆発事故があつて一気に放射能が出て、3年、5年目位からどんどん被害が出てきましたけど、日本の原発では事故がないとしても日常的に出される放射能で10年目位から現われてくるわけですね。

平井● 事故はあるよ、しょっちゅうあるんだから。放射能をバーッと放出するのはしょっちゅうやってるんだから。だから困る。そういうふうなことが当たり前なんだから。

—— 運転中は日常的に少しづつ出してますよね。それ以外にしょっちゅう大量に出してるということなんですか。

平井● 原子力発電所いうのは試運転後は必ず放射能を大量に放出しなきゃダメなようにできてるんだから。

—— でも、よく原発が事故で止まった時でも、放射能漏れはなかったという発表がつきものですよね。それはウソっぽいということですか。

平井● だから放射能漏れいうのがどこまでを言っているのかね。漏れいうのは自然に漏れたもんじょ。故意に出来るのは漏れたんじゃない、出してるんだから。

—— え!? そういうことなんですか。でもそれでだまされる人は多いでしょうね。僕も漏れてないということは出でないことと思ってました。

平井● 電力会社の広報なんかは放射能なんか出してない言うの。でも出すものをおれは作ってるんだから。原子炉建屋の4階のここにこういうふうにして出すように作ってるんだからって。

—— ではそれをごまかして取り繕って、何も出してないよう P R してるわけですね。

平井● 今ね、国の安全いう言葉を信じたら、ほんとに殺されるよ。

僕はたいていの人よりはずっと原発の事を知っていると自分では思っていたのだが、今回のインタビューを聞いて自分の無知にがく然とさせられた。「安全運転」をしていると P R している原発で大量の放射能が放出され、労働者ばかりが周辺住民にも被曝障害が出ているということ。またそれをウソとゴマカシでつくろっているという事実には、いまさらながらに苦い憤りを感じる。やはり原発を含めた核と人類（そして全ての生物）は共存できない。核のない地球、核のない未来を一日も早く実現させるしか、人類の生き延びる道はないだろう。

(浜田)